

町政 一般質問 を問う！



一般質問とは、議員が町政全般に関して、執行機関（町長や行政委員会）にその執行の状況や将来の方針、住民生活に密接に係わる事項等について質問をすることをいいます。

清水町議会では1人の質問時間を答弁も含めて90分以内としています。



9月定例会では、7人の議員が16項目にわたり一般質問を行いました。

※ 1議員最大3項目まで掲載、質問と答弁は要約し掲載しています。

一般質問の全文はホームページでご覧いただけます。（9月定例会の内容は12月末に掲載予定です）



中河 つる子 議員 8ページ

- 1 介護施設への運営経費及びエアコン設置への補助について
- 2 高齢者へのエアコン購入費の補助について



鈴木 孝寿 議員 9ページ

- 1 二地域居住促進に関する取り組みについて
- 2 清水高校における地域みらい留学の現状について
- 3 清水公園の現状について



佐藤 幸一 議員 10ページ

- 1 JR十勝清水駅跨線橋対策について
- 2 しみず温泉フロイデ看板の撤去について
- 3 带状疱疹ワクチンの任意接種者に対する助成について



田村 幸紀 議員 11ページ

- 1 選挙公約と総合戦略の整合性



山本 奈央 議員 12ページ

- 1 まちづくりに関わる住民参加について
- 2 「いちまる」跡地に関するその後の対応について



橋本 晃明 議員 13ページ

- 1 財政状況と事業実現の見通しについて



川上 均 議員 14ページ

- 1 投票所の再編及び投票困難者への移動支援について問う
- 2 令和8年度の町民への物価高騰対策を問う
- 3 ごみステーションの再編とゴミ出し困難世帯へのふれあい収集の考え
- 4 公衆浴場入浴料金の引き下げ及び負担軽減による利用者拡大の取り組み

各議員のページにある「QRコード」を読み込むと、それぞれ一般質問のやり取り（YouTube映像）をご覧になります。

介護施設への運営経費及び エアコン設置への補助について



中河 つる子 議員

町長 町独自の支援は考えていない
国や道の制度を活用していく



小規模多機能型居宅介護事業所

問

昨年から続く物価高騰、中でも食料品、日用品の高騰、人件費の単価の上昇は施設の負担を大きくしている。また、昨年や今年の夏の気温上昇は高齢者にとって耐えがたい暑さである。

熱中症対策として、エアコン設備のない施設へエアコン購入費の補助を考える必要があると思うが、町長の考えを伺う。

町長

昨今の物価高騰や人件費の上昇は、介護施設の運営に大きな影響を及ぼしており、さらに近年は夏季の猛暑が常態化する中で、入所者の健康を守るための空調設備の整備は、ますます重要となっている。

こうした状況を踏まえ、国や北海道は、令和6年度から7年度にかけて光熱費や食材料の高騰に対する支援を実施している。人件費についても国が介護報酬に上乘せする加算制度を設けている。現時点では町独自で新たな補助制度を設けることは考えていない。国や道の制度の円滑な活用に努める

中河議員の
一般質問全編



高齢者へのエアコン購入費の補助について

町長 設置・維持を含めた支援の在り方を総合的に勘案し、
現時点では実施しない方針である

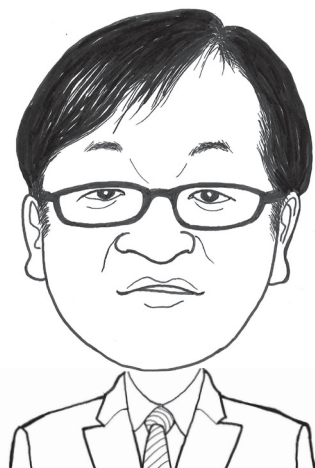
問

昨年や今年の夏の気温上昇は異常で、自宅にエアコンを設置していない高齢者世帯に対し、熱中症対策としてエアコン購入費を補助してはどうか。町長の考えを伺う。

町長

近年の気候変動により夏季の高温日が増加し、十勝地域では熱中症警戒アラートの発表が多い傾向にあるため、町としても熱中症対策の重要性が増していると認識している。エアコン設置費用に対する助成については、継続的な財政負担や、設置・維持を含めた支援の在り方を総合的に勘案し、現時点では実施しない方針である。ただし、十勝管内市町村の動向や、国や北海道の新たな支援制度が示された場合は十分に考慮し、今後も助成の可能性について検討を続ける。

二地域居住促進に関する 取り組みについて



鈴木 孝寿 議員

町長 工夫を重ね、本町の活性化に繋げていきたい

問 交流人口の拡大やふるさと納税の推進は、地方の自治体として不可欠な施策となってくる。東京清水会等の在り方や、移住定住フェアの参加、物産展等も戦略的に資源を集中して行う必要がある。特に今後推進されていくと思われる二地域居住の促進と併せて目的意識を統一することが重要と思われる。

また、今後整備される制度を中心に、目的意識を明確にし、すべての事業が連動する戦略を展開すべきと考えるが町長の考えを伺う。

町長 東京・札幌・帯広の3つの清水会は大変努力していただいているところだが、会員の高齢化や役員の担い手不足等、課題は山積していると聞いている。物産展においては、手応えはあるものの、費用対効果を勘案するとその評価は一概に難しいと考える。また、移住フェアには昨年東京、大阪、札幌と参加し、移住は昨年1組の方が結び付いたという成果があった。しかし、全国の自治体で同様の取り組みがある中では、費用対効果として実を結びづらい事業であることも事実である。

今後関係人口の増加に寄与していくため、制度が整備途上の中ではあるが、二地域居住の可能性を検討し、引き続き工夫を重ね、本町の活性化に繋げていきたい。

清水高校における地域みらい留学の現状について

教育長 受入体制の充実を図る
コーディネートについて検討していきたい

問 高校の活性化に向けて、全国から高校生を募集している清水高校に対し、町としての受け入れ体制の現状と来年以降の体制を含め支援の考えを伺う。また、他の高校で見られるコーディネートターの導入も考えがあるか伺う。

教育長 清水高校振興会の方々をはじめ、企業・飲食店や町民の方々から支援をいただき運営をしている。今後の受け入れ体制の充実については、住まいの確保や飲食店等の拡充など、生活の見守りも含めて継続して提供でき

るよう方策を考えていきたいと考える。
また、コーディネートターの導入についても検討していきたい。

清水公園の現状について

町長 よりよい方向性を見出すべく、今後も検討する



清水高等学校

問 清水公園の飲食店が休止すると伺っているが、過去に町が多額の助成を行っている。これらについて責任の所在を含めて今後町としての対応を伺う。

町長 平成30年度に町から補助金で浄化槽を新設し、観光の情報発信拠点として人件費の補助も行ったが、今般飲食店休止のお話を事業主の方から伺い、驚きと大変残念な思いである。現在、より

良い方向性を見出すべく協議をしているが、憩いの場としての清水公園を目指し継続して今後も検討していく。

鈴木議員の
一般質問全編

